

事務事業評価表 平成24年度

政策 安心を感じる保健・医療・福祉の充実
 施策 障がい者福祉の充実
 基本事業 療育指導の充実

事業名 **子ども発達支援推進事業**

[0193]

部名	健康福祉部	事業開始年度	昭和52年度	実施計画事業認定	対象
課名	子ども発達支援センター	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>心身発達に不安がある18歳未満の児童およびその保護者</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>発達相談を受けることで、保護者の不安を解消したり、児童の発達上の遅れや障がいを早期に発見し、適切な療育の場を提供する。</p>
	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>対象児童に対し、心理発達検査や精神及び運動機能評価等を実施し、結果に基づいて児童への指導および保護者への助言などの発達相談を行う。また、必要に応じて関係機関を紹介する。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度当初
対象指標1	発達相談を受けた18歳未満の児童数	人	230	326	265	320
対象指標2						
活動指標1	発達相談件数(延べ数)	件	580	538	457	530
活動指標2						
成果指標1	発達相談により早期発見された要支援者数	人	79	82	59	80
成果指標2	相談した結果、療育の場を提供した割合	%	80	76	73	80
単位コスト指標						
事業費計(A)		千円	6,905	7,129	7,741	7,384
正職員人件費(B)		千円	12,862	12,493	16,052	16,186
総事業費(A)+(B)		千円	19,767	19,622	23,793	23,570

費用内訳	
23年度	報酬 5,600千円、報償費 17千円、旅費 493千円、需用費 318千円、役務費 180千円、委託料 80千円、使用料及び賃借料 142千円、負担金・補助及び交付金 911千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	
--------	--	-------------	--

23年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・根拠は？

当センターで実施している発達相談および保健センターの健診事業への協力による発達相談は、児童の障がいや発達の遅れを早期に発見し、早期療育につなげたり保護者の育児不安を解消することから、市としての妥当な事業である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・根拠は？

保健センターにおいては4ヶ月、1歳半、3歳児、入学前健診をすでに実施しているが、その中で、要再健診の人に発達健診および発達相談を行なっている。また、広報えべつにおいて療育機関にかかわっていない児童への発達相談を通知しており全員の中で漏れなく発達の問題を発見できるようにしている。保護者の悩みの解消については、親族全員を対象にしており障がいや遅れを早期発見にする事で、保護者の不安を解消できる事から、貢献度は大きい。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・根拠は？

えべつ広報で通知する発達相談の開催により子ども発達支援センターの知名度が上がってきており心理発達相談員、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士の発達相談が定着しつつある。相談延べ数が年々減少しているのは相談の場が定着し、低年齢より相談を受け、早期に方向性を見出し親の不安が解消された結果であると思われる。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小 なし

理由・根拠は？

健診の受診率が97%程度のため、受診していない人の健診を実施できれば、発見数は増える可能性がある。健診方法は医師を含め、医療・心理等のスタッフで、また発達相談は専門の作業療法士、理学療法士、臨床心理士、言語聴覚士が総合的に判断しているので、現時点では最適な方法であると思われる。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算 + 所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・根拠は？

成果向上 = コストアップ（人件費）となる。